

宮古市立田老第一中学校

2014年 9月 3日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 「いのち」宮古市立田老第一中学校 津波体験作文集 2013年3月
<http://rcrdm.iwate-u.ac.jp/wp-content/uploads/2013/07/ec5ecd76fddb49621ffb66b845cbf257.pdf>
- (3) 宮古市立田老第一中学校HP 震災の記憶 <http://www.taro-first.sakura.ne.jp/shinsainokioku.html>

【場所】

田老湾から約600mの位置にある。
住所:岩手県宮古市田老館が森3

【東日本大震災による被害】

津波により1階が浸水。(1)

※一時的に田老第一小学校で学校を再開したが、現在は元の場所で再開している。



赤い範囲:宮古市

赤い範囲:田老

緑の範囲:田老第一中学校

【震災当日の様子】

6時間目の授業中に地震が起こった、普段の避難訓練通り校庭に全生徒が避難した。約30mの水柱を教員が確認し、校務員が「津波だ、逃げる」と叫んだのをきっかけに、全生徒、教職員、避難住民は一斉に学校の裏山(赤沿山)に登った。山には田老総合事務所へ続く遊歩道があったが、標高が下がる道であったため利用せず、山の急斜面を登り、常蓮寺の墓地へ避難した。生徒の内何人かは田老第一小学校へ避難した。(2)(3)

【調査して言えること】

学校の敷地は少し高い土地にあり、標高10mほどで、海からの距離も近いので、津波が起こった際に、迅速な避難が必要な学校である。しかし、校舎のすぐ裏が山になっているため、高い場所への避難はしやすい学校である。

学校からは防潮堤は見えるが防潮堤の向こうの海面は見ることができない。この田老海岸の防潮堤は、総延長2.5km、海面からの高さが10mに及ぶ巨大なもので、国内外でも注目されていた防災設備であったが、今回の東日本大震災で発生した津波はこの防潮堤の高さを越え、防潮堤も破壊された。



校舎と裏山(2014/3/19撮影)



学校から約200m離れた防潮堤(2014/3/19撮影)



防潮堤から見た学校と田老(2013/9/3撮影)